

Formula NIPPON NEWS 2009.06.27
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第4戦・予選 [富士スピードウェイ]

デュバル (NAKAJIMA RACING) が初の予選 1 位を獲得

2 年目の石浦 (LeMans)、平手 (ahead IMPUL) が 2、3 位に

6月27日(土)、全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第4戦の予選が富士スピードウェイ(静岡県)で行なわれた。ポールポジションとなったのは、No. 31 ロイック・デュバル(NAKAJIMA RACING)。フォーミュラ・ニッポン4年目で自身初の予選1位獲得だった。2、3位には参戦2年目のNo. 8 石浦宏明 (Team LeMans)、No. 20 平手晃平 (ahead TEAM IMPUL) が入った。

この日は、梅雨ながら朝から夏空が広がり、気温/路面温度は上昇。しかし、ストレートには追い風で、各チームともにギヤレシオの選択にも頭を悩ませていた。まず20分間の予選Q1が始まったのは、午後1時45分。気温は32℃、路面温度は45℃。開始すると全車がユーズドタイヤでコースインし、マシンの状況を確認。そして一旦、ピットイン。このユーズドタイヤの段階で、好調のNo. 32 小暮卓史 (NAKAJIMA RACING)、デュバルが1分26秒前半から中盤のタイムを出し、1-2体制を築く。その後、残り7分半で、小暮がフロントタイヤだけニュータイヤを装着してコースイン。フロントタイヤをスクラブ(慣らし)して、ピットに戻る。そして、残り時間5分で各車コースイン。小暮だけはその1分後にコースへ。そして計測1周目に1分26秒139というタイムでトップを奪う。チェッカーの周に、小暮とわずか100分の2秒差となる自己ベストをマークし、2番手につけたのはデュバル。以下、午前中から速さを見せていた石浦、平手、前回もてぎで大活躍を見せたNo. 10 塚越広大 (HFDP RACING)、No. 37 大嶋和也 (PETRONAS TOM'S) と続いた。一方、前回の富士で予選2位だったNo. 41 伊沢拓也 (DOCOMO DANDELION) とNo. 48 立川祐路 (CERUMO/INGING) がこのセッションで敗退した。

10分間のインターバル後、午後2時15分にQ2開始。気温は29℃、路面温度は40℃とQ1よりは若干涼しくなる。このセッションでは開始と同時にNo. 7 国本京佑 (Team LeMans)、No. 2 ブノワ・トレルイエ (LAWSON IMPUL)、No. 1 松田次生 (LAWSON IMPUL)、No. 36 アンドレ・ロッター (PETRONAS TOM'S) の5台がコースイン。Q1で小暮がやっていたように、フロントだけニュータイヤを装着してスクラブし、ピットに戻る。その後、セッション残り5分で、次々にアタックへと向かった。チェッカー目前にトップタイムをマークしたのは、再び小暮。100分の8秒差でデュバルが2番手。以下、石浦、松田、平手と続いた。ここで、No. 40 リチャード・ライアン (DOCOMO DANDELION)、国本、そして現在ランキングトップのトレルイエがQ2敗退となっている。

さらに10分間のインターバルをはさんで、ポールポジションを決定するQ3が開始(午後2時35分)。気温29℃、路面温度42℃。このセッションでも大嶋、ロッター、塚越、平手、松田がフロントにニュータイヤを装着してコースインし、スクラブしてピットに戻る。そして、残りが5分40秒となり、デュバル、石浦、小暮がコースイン。フロントをスクラブした他のマシンは、その1分後あたりからコースに入った。ここで注目されたのはQ1、Q2ともにトップタイムを叩き出している小暮。だが、小暮はウォームアップラップで、デュバル、松田とタイミングが重なり、これでリズムを崩し、アタック1周目に13コーナー立ち上がりでまさかのスピン。コースに復帰した小暮は、翌周も続けてアタックを敢行するが、セクター3でタイヤの初期グリップが落ち始めてタイムを伸ばせず、まさかの6番手に終わった。これに対して、好調を維持したのはデュバル。路面コンディションが良くなったこともあり、デュバルはここで3セッションすべてでのベストタイムとなる1分25秒626をマーク。自身初のポールポジションを決定付けた。

明日の天気予報は、曇りから晴れ。ドライコンディションのレースになりそうだ。そこで、注目されるのはオーバーテイクシステム。どのドライバーも積極的に使用するだろう。また、スタートにも注目。他のサーキットに比べてギヤレシオが異なる富士は、スタートとそこからの加速が非常に難しい。特に2列目の松田、そして後方グリッドながらスタートに定評があるロッターやトレルイエは、見逃せない存在となりそうだ。

Formula NIPPON NEWS 2009.06.27
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第4戦・予選 [富士スピードウェイ]

予選トップ3 ドライバーのコメント

ポールポジション (予選1位)

No. 31 ロイック・デュバル (NAKAJIMA RACING)

ようやくポールポジションを獲得することができたね。だから、すごく嬉しい。今シーズンは、ちょっと遅れを取っていた部分があったから、今日の結果はチームにとっても僕にとっても、もちろんチャンピオンシップを考える上でも良かったし、明日のレースに向けて、一番いいポジションを得ることができたので、いい滑り出したと思う。Q3では、本当にいいラップを刻むことができた。

残念ながら、Q3で小暮さんが僕のタイムを上回れたかどうかという事は分からないけど、いずれにしても僕らのタイムは予選の最初からとても接近していたし、とにかくポールポジションを獲得したことは嬉しい。明日もいいレースができればいいと思っているよ。

予選2位

No. 8 石浦宏明 (Team LeMans)

前回のもてぎから、ドライでも結構上位に行けるようになってきて、クルマも決まってきましたし、スウィフトに合わせたドライビングも段々できるようになってきたと思っていました。前回のもてぎの予選では、ちょっと失敗して4位だったので、今回は何とかNAKAJIMA RACINGとの差を詰めて、ポールポジションを狙いにいきたいと思ってここに来たんですけど、朝走り始めたら結構なタイム差があつてショックでした。

そこから予選に向けてセッティングをアジャストしてもらいましたが、Q1、Q2、Q3に関しては、ほとんどインターバルでクルマを触ることはしませんでした。コンディションが上がるほど、クルマが路面にマッチしてきているような感じでしたし、エンジニアからも自分を信じて行けと言われていましたし、ちゃんと自分がコンディションなりにタイムを出せればポールポジションを狙えるなど思っていたんです。今日の2番手という結果は明日に向けて悪くないと思いますし、ここまではいい流れで来ているんじゃないかなと自分では思っています。

予選3位

No. 20 平手晃平 (ahead TEAM IMPUL)

前回のもてぎに引き続き、今回もNAKAJIMA RACING (No. 31/32) の2台が、朝からすごく速いタイムを出していて、IMPUL 勢 (No. 1/2/20) としては朝の段階ですごく差を付けられていると思いました。でも、ウチのクルマも若干ですけど良くなりつつあります。朝も余り走行する時間はなかったので、セッティングを最後まで詰めることはできなかったんですけど、それでもかなり仕上がってきたクルマで予選に臨むことができ、結果的に3番手というポジションを獲得することができたので、ホッとしています。

でも、NAKAJIMA RACINGとは、まだコンマ3~4秒の差があるので。明日の朝しかチャンスはないんですけど、レースに向けて試したいこともあるので、それをやって、もし上手く行けばレースで逆転するチャンスもあると思うので、がんばりたいと思います。

Formula NIPPON NEWS 2009.06.27
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第4戦・予選 [富士スピードウェイ]

第4戦富士・予選結果

富士スピードウェイ 4,563m

■天候：晴れ コース：ドライ 気温/路面温度：Q1 32°C/45°C、Q2 29°C/40°C、Q3 29°C/42°C

■開始/終了時間 Q1：13:45~14:05、Q2：14:15~14:25、Q3：14:35~14:45

Po	No	Name	Team	Q3	Q2	Q1
1	31	ロイック・デュバル	NAKAJIMA RACING	1'25.626/1	1'26.129/2	1'26.163/2
2	8	石浦 宏明	Team LeMans	1'25.911/2	1'26.256/3	1'26.495/3
3	20	平手 晃平	ahead IMPUL	1'25.927/3	1'26.597/5	1'26.631/4
4	1	松田 次生	LAWSON IMPUL	1'25.950/4	1'26.359/4	1'26.061/7
5	10	塚越 広大	HFDP RACING	1'26.387/5	1'26.746/6	1'26.897/5
6	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	1'26.438/6	1'26.049/1	1'26.139/1
7	37	大嶋 和也	PETRONAS TOM'S	1'26.496/7	1'26.935/7	1'27.029/6
8	36	アンドレ・ロッター	PETRONAS TOM'S	1'26.559/8	1'26.957/8	1'27.160/9
9	40	リチャード・ライアン	DOCOMO DANDELION		1'27.071/9	1'27.111/8
10	7	国本 京佑	Team LeMans		1'27.141/10	1'27.407/11
11	2	ブノワ・トレルイエ	LAWSON IMPUL		1'27.310/11	1'27.330/10
12	41	伊沢 拓也	DOCOMO DANDELION			1'27.490/12
13	48	立川 祐路	CERUMO/INGING			1'27.560/13

※タイムの後の数字は各セッションの順位

※車両：FN09/タイヤ：ブリヂストン

【この件に関するお問い合わせ】

株式会社日本レースプロモーション

広報担当 石原

media@f-nippon.co.jp